

単施設研究用

研究課題名「潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下手術の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2000年1月1日から2021年12月31日までに当院で潰瘍性大腸炎に対して手術を施行した症例

2. 研究目的・方法・研究期間

潰瘍性大腸炎に対する外科手術は、大腸全摘、回腸囊肛門（管）吻合術が標準術式とされています。出血、穿孔、中毒性巨大結腸症、重症型・劇症型で強力な内科治療が無効な症例は緊急手術の適応となり、内科治療では十分な効果がなく日常生活が困難な難治例や、癌および高度異型病変が併存する症例においては、待機手術（予定手術）が行われず。本症に対する腹腔鏡下手術は、通常の開腹術と比較し整容性の点で優れているとされていますが、その有用性については一定の見解は得られていません。当科では、2008年以前は開腹術を基本とし、2008年より腹腔鏡下手術を導入してきました。2008年以降は、待機手術（予定手術）においては腹腔鏡下手術を原則とし、緊急手術においては患者の全身状態が不良で短時間で手術が必要な場合のみ、開腹術を行ってきました。当院で潰瘍性大腸炎に対して手術を施行した症例を対象に、カルテから診療情報を収集し、腹腔鏡下手術の有用性と安全性について検証を行います。

研究期間は、2022年1月17日（実施承認日）～2027年3月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、家族歴、病歴、内科治療歴、手術所見、病理所見、採血結果、投薬内容、転帰等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院 消化器外科二 病院講師・服部憲史
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

TEL : 052-744-2249

FAX : 052-744-2252

研究責任者 :

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授・小寺泰弘